

研究課題名	腎機能バイオマーカーの妊娠高血圧腎症予測への有用性に関する評価
研究の意義・目的	<p>胎盤妊娠 12～16 週頃に形成されるといわれていますが、胎盤がうまく形成されなかった場合胎盤虚血を生じ、それが原因で妊娠高血圧症を発症することがあります。妊娠高血圧症は増悪すると胎児発育不全や腎機能障害による尿蛋白を伴う場合があります。妊娠高血圧腎症と診断されます。妊娠高血圧腎症は常位胎盤早期剥離、HELLP 症候群、子癇発作といった、母児の生命を脅かすような重篤な合併症を引き起こすリスクが高くなるため、より厳重な管理を行うと共に赤ちゃんの娩出時期の決定を行う必要があります。</p> <p>妊娠高血圧症を発症した妊婦さんについて、将来妊娠高血圧腎症へ進展することを予期することができれば、よりリスクの高い妊婦さんを厳重に管理することが可能となります。最近の研究成果によると、胎盤形成に関わる血管新生因子である PlGF とその阻害因子である sFlt-1 という物質が妊娠高血圧腎症の病態形成に関与していることが示され、sFlt-1/PlGF 比は妊娠高血圧腎症の発症を予測する指標として注目されています。</p> <p>腎機能が障害されると尿中における好中球ゼラチナーゼ結合性リポカリン (neutrophil gelatinase-associated lipocalin: NGAL)、N-アセチル-β-D-グルコサミニダーゼ (N-acetyl-β-D-glucosaminidase: NAG)、βミクログロブリン (Urinary β₂-microglobulin: β₂MG) の排泄が増加します。これらの腎機能障害の評価のために用いられるバイオマーカーが、妊娠高血圧腎症発症の予測に有用であるかどうかを調べるのが今回の研究の目的です。</p>
研究を行う期間	機関の長の実施の許可日 ~2028年3月31日
研究協力を お願いしたい方 (対象者)	2021年1月～2027年3月に大阪公立大学医学部附属病院の女性診療科へ、妊娠高血圧症のため受診された <u>18歳以上</u> の方が対象となります。
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせて いただく試料・情報 等の項目	<p>診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。</p> <p>診療情報： 基本情報：年齢、身長、妊娠前体重 周産期事象：妊娠回数、出産回数、分娩週数、妊娠高血圧症の病型及び重症度、分娩時体重、入院時血圧 新生児の情報：出生体重、性別、Apgar score 血液検査結果：血球数、タンパク、アルブミン、BUN、クレアチニン、尿酸、Na、K、Cl、AST、ALT、総ビリルビン、LDH、PT、APTT、フィブリノゲン、FDP、Dダイマー、プロテインC、プロテインS、sFlt1、PlGF 尿検査結果：蛋白、NGAL、NAG、β₂MG、クレアチニン</p>
試料・情報を利用する者の範囲	この研究は大阪公立大学医学部附属病院女性診療科のみで行います。
試料・情報の管理について責任を有する者の研究機関の名称	公立大学法人大阪、大阪公立大学医学部附属病院
本研究の	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その

利益相反	指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力を したくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 女性生涯医学 (担当者氏名) 三枚卓也 電話番号：06-6645-3862 メールアドレス：gr-med-obandg@omu.ac.jp@omu.ac.jp